

## 高齢者における熟知相貌の認知とその影響について

能登真一<sup>1)</sup>、皆川陽子<sup>1)</sup>、笠井明美 (RPT)<sup>1)</sup>、  
二木淑子<sup>1)</sup>、上村隆元 (MD)<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 新潟医療福祉大学、<sup>1)</sup> 尾山愛広苑、<sup>1)</sup> 金沢大学医学部  
保健学科 <sup>1)</sup> 慶応大学医学部公衆衛生学教室

### 【はじめに】

熟知相貌の認知については、遠隔記憶とくに顔の意味記憶に関するものとしてこれまで数々の報告がされてきた。海外では Alzheimer 病患者を対象に意味記憶との関連性を報告した研究が多い。一方我々の臨床場面では、担当の患者さんに中々顔や名前を覚えてもらえないことがしばしば経験される。今回、介護老人保健施設に入所する高齢者を対象に熟知相貌の認知についての評価とその程度が全般的認知機能、日常生活状況、QOL に与える影響について調べることを目的に調査を行った。

### 【方法】

対象は介護老人保健施設に入所する高齢者 21 名である (男性 5 名、女性 16 名)。対象者の平均年齢は 83.3 (64-101) 歳で、平均通算入所期間は 20.8 (3-47) ヶ月であった。

熟知相貌の認知についての評価は Hodges & Ward (Brain;1989) による Famous Faces Test を参考に 1940 年代から 1980 年代までの日本の芸能人をターゲットとするオリジナル版 (JFFT) を作成した。これは、ターゲットとなる人物について、認知、同定、ネーミングの 3 レベルで評価を行うもので、今回は各年代 5 人ずつをターゲットにした。得点は正解を 1 点とし、5 つの年代を合計した各レベル 25 点満点で 3 レベルの総合計を 75 点とした。

全般的認知機能は Mini Mental State Examination (MMSE) を、日常生活状況はパラチェック老人行動評定尺度 (PGC)、QOL については Health Utility Index (HUI) の proxy バージョンを用いた。PGC は身体機能、身辺処理、社会的行動に関する 10 の項目を 5 段階で評価する方法で、50 点が最高得点である。HUI は効用理論から QOL を一次的スコアで評価する方法の一つであり、死を 0、完全な健康を 1 として表すものである。

調査にあたっては、対象者に研究の目的と趣旨を説明し同意を得た上で行った。また統計的手法は、すべて Spearman の順位相関を用いた。

### 【結果】

JFFT では、認知 13.9 点、同定 13.6 点、ネーミング 4.5 点となり、3 レベル合計の得点は 32.0 点となった。年代ごとでは 3 レベルの合計得点が、1940 年代 5.3 点、50 年代 9.0 点、60 年代 8.4 点、70 年代 6.5 点、80 年代 2.8 点となり、50 年代と 60 年代の得点が高くなった。

一方、MMSE の平均は 20.8 点で、カットオフとなった対象者は 17 名であった。PGC では、トータルの平均が 39.0 点となり、そのうち社会的行動は 11.7 であった。HUI は平均が 0.22 で、最高 0.97、最低は -0.12 であった。

JFFT による熟知相貌の認知は、年齢と負の有意な相関関係 ( $r=-0.66$ ,  $p=0.003$ ) を認めた他、MMSE と正の傾向 ( $r=0.42$ ,  $p=0.057$ ) があった。しかし、PGC や HUI との関係は認めなかった。HUI は MMSE ( $r=0.49$ ,  $p=0.027$ ) および PGC ( $r=0.62$ ,  $p=0.006$ ) と有意な相関関係を認めた。

### 【考察】

有名人を用いた熟知相貌の認知評価については、江口ら (1996) が視覚性遠隔記憶検査の一部として紹介しているが、その認知の程度と生活に与える影響については検討されていない。今回、海外で用いられている Famous Faces Test を参考に日本版を作成・試用してみたが、全般的認知機能、日常生活状況、QOL とともに関連を認めず、むしろ年齢に影響を受けた。これは、海外とくにアメリカと日本の映像文化の違いによるところが大きいと考えられ、有名人を用いた遠隔記憶としての相貌認知を調べる際には対象者の年齢を十分に検討した上で用いることが必要と思われた。また HUI については、MMSE や PGC との有意な関連を認め、その有用性が示唆された。

臨床場面での相貌認知が与える影響については、今回の調査ではその検討が不十分であるため、今後は施設の職員をターゲットとした相貌認知テストを作成し研究を続けていきたいと考えている。

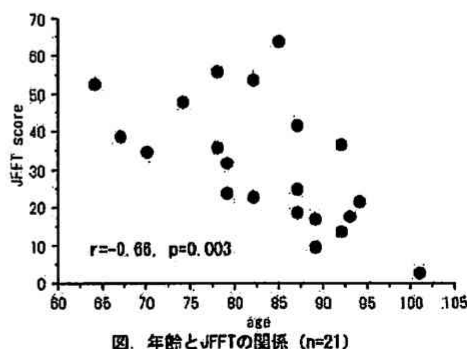


図 4. 年齢と JFFT の関係 (n=21)